

データ入稿ガイド

SERICO DATA GUIDE | 第3版



データ入稿の注意点

1. ファイル・フォルダ名

- ファイル名の文字数は、**欧文 25 字以内** にして下さい
※ 画像ファイル名が長すぎるとリンク画像のファイル名が化けてしまう場合があります
- 「/ : * ? "」などの記号、「. (拡張子以外のピリオド)」は使用しないで下さい

2. 入稿方法

- メディア----- CD-R、DVD-R、外付け HD、USB フラッシュメモリー
- FTP ----- 必要時、アカウントを発行します
- Eメール----- 5MB を超える場合は宅ふぁいる便等の [ファイル転送サービス] をご利用下さい

3. フォント

フォントをアウトライン化できるソフトで作成した場合、**必ずアウトライン化して下さい**

4. バックアップ

出力後一定期間経過したデータは、増刷などの予定がない限り全て消去してしまいます。入稿される際、**必ずお客様側でバックアップを控え下さい**

サイズ

B 版	B2 版	仕上がりサイズ (546mm × 765mm)	版面サイズ (526mm × 745mm)
	B3 版	仕上がりサイズ (383mm × 546mm)	版面サイズ (363mm × 526mm)
	B4 版	仕上がりサイズ (273mm × 383mm)	版面サイズ (253mm × 363mm)
	長 B3 版	仕上がりサイズ (765mm × 273mm)	版面サイズ (745mm × 253mm)
D 版	D2 版	仕上がりサイズ (546mm × 813mm)	版面サイズ (526mm × 793mm)
	D3 版	仕上がりサイズ (406mm × 546mm)	版面サイズ (386mm × 526mm)
	D4 版	仕上がりサイズ (273mm × 406mm)	版面サイズ (253mm × 386mm)

※ JIS 規格サイズの A 版・B 版の化粧断ちに関しては、天地左右塗り足し 3mm を付けて下さい
また、仕上がりサイズに近い文字は断裁で切れる恐れがありますので版面の内側 3mm に入れて下さい

対応アプリケーション

当社では下記のアプリケーションに対応していますが PDF/X-1a、OutlinePDF (EQUIOS) での入稿を推奨しております

■ DTP アプリケーション

Adobe | Illustrator・Photoshop・InDesign CC まで対応

※ InDesign をご使用のお客様は、PDF/X-1a に書き出してから入稿して下さい
Microsoft Office 系のお客様は、PDF に保存から入稿して下さい

Illustrator の注意点

1. トンボの作成

トンボは [フィルタ→クリエイト→トリムマーク] で作成して下さい
トンボ外の不要なデータは削除して下さい

2. 書類のカラーモード

作成するドキュメントは必ず **CMYK モード** をお願いします
[ファイル→書類のカラーモード] で確認して下さい

3. RGB や特色

RGB や特色があった場合、強制的にプロセス CMYK に変換させていただきます

4. 配置画像

配置する画像データは、EPS 形式か TIFF 形式の画像データを「リンク」または「埋め込み」で配置して下さい
また、配置する画像データが CMYK、またはグレースケールになっていることを確認して下さい

5. オーバープリント (ノセ)

オーバープリントやトラップ処理などは当社にて行います
意図的に使用されている場合、入稿時その旨をお伝えください

6. 使用する色

1色、2色、3色印刷の場合、使用する色以外の色が入っていないよう確認して下さい

7. 見本画像 (カンブ)

遠方のお客様の場合、郵送の代わりに見本画像 (JPEG データ) をメール送信して頂く場合がございます
[Illustrator データ (版下) + Photoshop データ (使用画像データ) + JPEG or PDF (見本画像)]

Photoshop の注意点

1. カラーモード

カラーモードは必ず CMYK にして下さい

RGB で出力された場合、暗くくすんでしまうなど意図するものと違う色味になってしまいます

2. EPS 画像の保存オプション

プレビューは [Macintosh 8bit/pixel] または「TIFF 8bit/pixel」、エンコーディングは [バイナリ] または
[JPEG- 最高画質 (低圧縮率)] で保存して下さい

[ハーフトーンスクリーンを含める]、[トランスファ関数を含める] にはチェックを入れないで下さい
チェックを入れて保存された場合、印刷の際にその画像だけ線数が粗く印刷されてしまうなどの問題が発生します

3. 解像度について

解像度は 300dpi ~ 350dpi にして下さい。

デジタルカメラ画像や著作権フリー素材集などは、解像度が低くなっている場合がありますのでご注意ください

PDF 入稿について

当社では、ISO 基準の PDF/X-1a、EQUIOS の OutlinePDF での入稿を受け付けております

1. PDF/X-1a について

PDF/X とは印刷を目的とした ISO（国際標準化機構）基準で、認定された PDF のフォーマットの一つです。ISO で定めた PDF/X には「PDF/X-1a (ISO 15930-1:2001)」と「PDF/X-3 (ISO 15930-3:2002)」の 2 種類がありますが、最も印刷用として適合しているのは PDF/X-1a です

■ PDF/X-1a の概要

- PDF のバージョンは PDF1.3（Acrobat 4.0 以降）形式である
- 平網・画像を含め PDF に含まれる全てのカラーモードは CMYK（+特色）に限定され、カラーマネージメントは使用されない
- フォントは全てアウトラインデータ、またはエンベット（埋め込み）であること
- 画像は全て実画像を埋め込むこと
- 文字修飾を使用しないこと
- 透明効果は全て分割される
- OPI 情報を含まない
- トランスファ関数^{※1}やハーフトーンスクリーン情報^{※2}を含まないこと
- トラッピング、出カインテントが指定されていること
- 仕上がりサイズ（trimbox）、裁ち落としサイズ（bleedbox）が適切に設定されている

※1 トランスファ関数とはデータの値はそのままに、出力時にデータの値を変更させる機能です

※2 ハーフトーンスクリーン情報とは、出力先の線数や網の角度などを指定する情報です

■ PDF/X-1a のメリット

- 入稿データとして安全性が高い
- フォントが埋め込まれた状態（またはアウトライン化された状態）であるので、文字化け等の可能性がない
- 実画像は全て埋め込みなので、画像リンク切れなどのトラブルが発生しない
- 透明効果を分割するので、トラブルの発生する可能性が少なくなる
- 作成アプリケーションに依存しないため、OS のバージョンや環境に悩まされることがない
- PDF は基本的にデータ容量が軽くなるので、データ入稿の際に時間が短縮できる

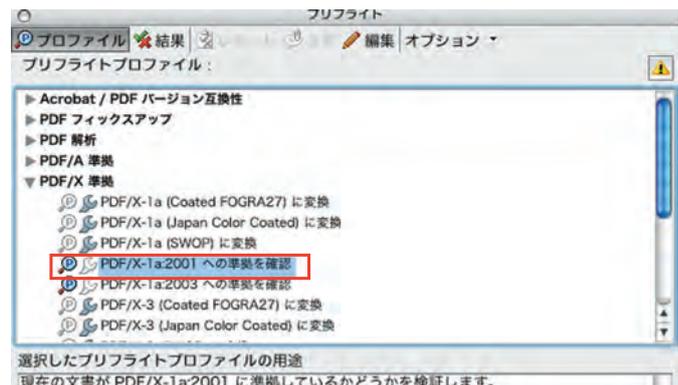
■ PDF/X-1a の注意点

- PDF/X-1a は印刷工程を重視したものだが、画像の解像度に関しての制限はない
→ 72dpi やそれ以下の解像度であっても PDF/X-1a としては問題がないため、プリフライトでは合格しますが
しかし印刷では、元の解像度が低いため粗く印刷されてしまいます

2. プリフライト（出力前のデータチェック）

プリフライトとは、作成した PDF/X-1a が ISO 規格に準拠しているか確認する機能です。準拠していれば印刷用として問題なく出力できます。

プリフライトではフォント・画像形式・画像リンク・解像度・カラー・罫線の細さなど、出力に関する全ての事柄をチェックしますので必ず行って下さい。



PDF 入稿の注意点

1. ドキュメント中の版面の位置

版面はドキュメントの中央に配置されていることを確認して下さい

版の詳細や色玉などがある場合、それらを含めて版面を中央に配置して下さい

- 化粧断裁—— Illustrator の [トリムマーク] からトンボを作成し、塗り足し部分 3mm を出して下さい
- 袋断裁—— 化粧断裁ではない場合、版下のまわりに天地・左右それぞれ均等に余白を付けて下さい

化粧断裁の場合（規格サイズ）



袋断裁の場合



2. 使用する色について

- 1色、2色、3色印刷の場合、使用する色以外の色が入っていないよう、Acrobat の [出力プレビュー] で確認して下さい
- CMYK 印刷にもかかわらず特色が存在している場合は、当社 RIP にて疑似色化します

3. オーバープリント

オーバープリントは当社 RIP のシステム設定で出力します。オーバープリントに関してご希望のある場合はご相談下さい

4. フォント

フォントはアプリケーション上でアウトライン化するか、PDF に書き出す際、埋め込んで下さい

5. プリフライト

Acrobat で [アドバンスト→印刷工程→プリフライト] から、「PDF/X-1a への準拠を確認」を実行して下さい

6. 透明効果を保持しているデータについて

透明効果が保持されているデータ場合は、アピアランスを分割してから入稿して下さい